



とくしま魅カスポット

徳島県内のキラッと光る商品や技術、場所、人にスポットを当て、創造の現場から発信される声や笑顔、そして、こだわりの品々をレポートします。

阿波花火師有志の会

阿波花火発祥の地といわれている徳島。その日本有数の花火処であるという認知度向上、そして、平和産業としての花火を広める活動をしている「阿波花火師有志の会」の会長・澤内健司さんに、お話を伺いました。

◆この活動を始めたきっかけは？

最初のきっかけは、阪神淡路大震災ですね。震災当時は大学生で、神戸市の下宿先で地震にあったものの、何もできず、ただ佇むだけの自分がいきました。しかしその頃から、自分が、世のため人のために何かできないかと模索しはじめ、JCに入ったり、様々なボランティア活動を行うなどをしていました。

◆どのような活動をしていますか？

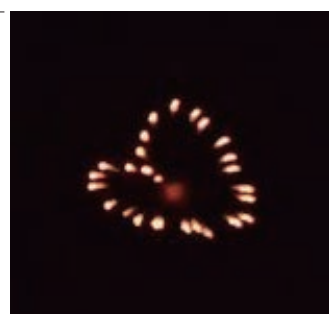
遠い昔、勝浦川から那賀川の一部の流域に分散して火薬製造の秘法が伝えられていたそうで、そこから派生して平和産業である花火が発展したと伝えられています。しかし、そのことを、地元住民をはじめ、県内出身者でも意外と知らないのです。戦争に使われてきた火薬を、人を笑顔にさせる花火へと転換できる。これを利用し、阿波花火の認知度向上、そして平

和を、花火をとおして呼びかけています。

これまでは、クリスマスやバレンタイン、卒業式や七夕などで様々な打ち上げ企画をし、小松島市内を中心に、県内各地で行ってきました。

◆中には、「お和火します」というイベントもありましたね。

誰かにお詫びしたい人やお詫びしてほしいことがある人に集まってもらい、阿波花火師が和火（日本古来の花火）を使って変わりにお詫びしますというものです（笑）。それを行う場所にも実は意味があります。徳島市



世界初の立体ハート型阿波花火

にある日本一低い自然の山・弁天山で行うことにより、これ以上低い山がない、ここからスタートだという意味をこめているのです。

◆これらの活動のきっかけとなった阪神淡路大震災から今年は何年でしたか。

阿波花火師有志の会では、1月17日、震災が起きた同時刻に、追悼の意味をこめ、文字仕掛け花火を行いました。実際には60秒かかる文字仕掛け花火を、20秒間という短さに阿南市の岸加工製造所に事前に作ってもらいました。

当日は、震災を知らない若い方々も早朝にも関



阿波花火師有志の会 <http://awahanabishi.jimdo.com/>

わらず集まってくれ、皆で防災、減災、平和を改めて考えるきっかけに少しでもなったのではと思っています。

◆最後にメッセージを
これからは皆さんに少しでも阿波花火のこと、そして、平和への心が伝われば良いなと思っています。まずは、HPもご覧頂き、イベントの際には、ぜひ参加して頂けたらと思います。